

# あたらしくはいった本 (令和5年11月 貸出開始資料から)

- 小説 カーテンコール(筒井康隆/著) 肉を脱ぐ(李琴峰/著) 天神参り(山本一力/著) 福音列車(川越宗一/著) アンと幸福(坂木司/著) 黒い絵(原田マハ/著) 椿ノ恋文(小川糸/著) 野火、奔る(あさのあつこ/著) 砂時計(香納諒一/著) トゥデイズ(長嶋有/著) マリスアングル(誉田哲也/著) 私労働小説(ブレイディみかこ/著) 夢幻(曾野綾子/著) 侵略日記(アンドレイ・クルコフ/著) 人類の深奥に秘められた記憶(モアメド・ムブガル・サール/著)
- 随筆・詩などの文学 おいしいふ〜せん(角野栄子/著) 記憶の歳時記(村山由佳/著) アボカドの種(俵万智/著) 恋できみが死なない理由(最果タヒ/著) エッセイストのように生きる(松浦弥太郎/著)
- その他の本 50代からの大人ひとり旅(地曳いく子/著) こどものあそびぎ(玉井健太郎、玉井瑤子/著) 腰痛は、タイプ別ちょこっと運動で治す!(金岡恒治/監修) 保育園一年生(てい先生/監修ほか) あのとき売った本、売れた本(小出和代/著)



筒井康隆/著  
『カーテンコール』  
新潮社刊



李琴峰/著  
『肉を脱ぐ』  
筑摩書房



角野栄子/著  
『おいしいふ〜せん』  
NHK出版

## みんなの としょかん



ホームページ

市民図書館

TEL (921) 4646  
FAX (921) 4896

## としょかんカレンダー

令和6年	日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31	

○印の日は、お休みです。

開館時間 午前10時から午後6時まで

金曜・土曜(祝日除く・太字の日)は午後7時まで

ここにいう所司を、私は「大宰府部内にそれぞれの庶務を担うべく形成された分課的な部署」と定義しています。それらが〇〇司、△△所などのように呼ばれていたのです。たとえていえば市役所の中の総務課、税務課、財政課などのようなもの、といえはわかりやすいでしょうか。史料上では、主神司、防人司などをはじめとして26の所司を確認することができます。

私は、昨年3月に刊行された機関誌『大宰府市公文書館紀要―年報大宰府学』第17号に「大宰府所司の形成過程とその運営体制」という論文を発表しました。ここではその論文で考えたことをもとに、少し述べてみたいと思います。



～公文書館だより⑩～

規定された品官を母体とするもの、(C)は同じく大宰府条に規定された大宰帥や品官のもつ職務内容の一部を継承する形でできた所司と考えています。

もう一つのポイントは、それらの成り立ちを基礎にしながら、これまであまり言及されていなかったそれぞれの所司の運営体制のあり方にもふみこんでみたことです。

一般に、こうした所司の運営には、大宰監・典といった四等官のうちの第三等官・第四等官が関わっていたとされてきましたが、ことに(B)の所司と(C)のそれとではその関わり方が相違するのではないかと考えてみました。こうした検討を積み重ねていくことで、古代大宰府の姿を少しずつ明らかにしていきたいと考えています。

これを読んで関心をもった人には、機関誌(図書館で閲覧できます)を手にとって一読してもらえればと思います。

太宰府市公文書館 重松 敏彦

## 古代大宰府の所司

【バックナンバーはこちら】 ページID7241